

第 33 回マネジメントセミナー&第 10 回会員情報交換会(三日会)

「限界への挑戦」 ～本気になれば何かが変わる～ピンチはチャンス～

12月 1日(月)／ワークピア横浜

第 33 回マネジメントセミナーは、日本体育大学体育学部長・教授の具志堅 幸司氏を講師にお招きし、「限界への挑戦」をテーマにご講演をいただいた。同氏は日本体操界の第一人者として後進の育成・指導にあたりるとともに、県教育委員会委員長の要職にもあり、ご活躍をされている。

当日の会場には 70 名を超える参加者（非会員を含む）が集まり、ロサンゼルス五輪で金メダルを取るまでの厳しい道程や弛まぬ努力、極限状態やけがや故障で挫折しそうな時の心の保ち方、指導者の役割やあり方、目標や夢にむけて本気になることの大切さなど、講師自身の経験に裏付けられた説得力のある話を聴くことができた。講演後の参加者アンケートでも、“大変参考になった” “かなり参考になった” との回答が大半であり、好評のうちに講演会は終了した。



【講演要旨】

（冒頭、ロス五輪の体操演技、表彰台でのメダル授与の DVD の視聴後に） 演技最終日の出発バスのなかで自分がイメージしたとおりの演技がある時はでき、個人 5 位からの逆転で金メダルの表彰台に上った。すべてバスでのイメージのとおりだった。振り返るとモスクワ五輪がロットの後、自分は「金をとる」と日誌に書き、言葉に発していた。自分の初めてで最後のチャンス。本気になった。14 歳の頃からの夢や目標を具体的なイメージとして持ち続けたことがよかったのだと思う。五輪直前にアキレス腱の故障で入院したが、その間も金メダルがとれるとイメージして、上半身の筋トレを継続し、つり輪の金、逆転の金をとることができた。正に“ピンチがチャンス”になっていた。

これまでいろいろな恩師や後輩らと出会い学んできたが、自分がどうあるべきかに気づいて、変わることが重要だ。学生の指導も、納得できるように話し気づかせることに配慮している。相手にどう伝わったが重要である。気づいた本人が本気になれば、目標は具体的なイメージとなり、どのような時にあっても、それができるようになる。